

たどつのもかし

Vol.5 (H25.4.1)

～1600年前の多度津の支配者墓：御産盥山古墳～

みたらいやま

御産盥山古墳は多度津町西白方、弘田川河口域の入江を望める丘陵の尾根上に造られた古墳時代前期(4世紀末頃)の前方後円墳です。円筒埴輪や朝顔形埴輪などが出土しています(図参照)。

御産盥山古墳の形状は先述したように前方後円墳と呼ばれ、上から見ると柄鏡や鍵穴のような形状をしています(図参照)。そしてその全長は48mと推定



されます。

古墳の周辺では古くから人間の生活が営まれていたようです。そのため古墳の南側に隣接する

にしらかたかわらだに
西白方瓦谷遺跡、さらに奥白方

おくしらかたなかおち なかひがし
には奥白方中落遺跡や中東遺

跡など古墳時代の集落の痕跡も確認されています。御産盥山古

墳はこれらの集落で暮らす人々を見下ろす立地で、近接地には

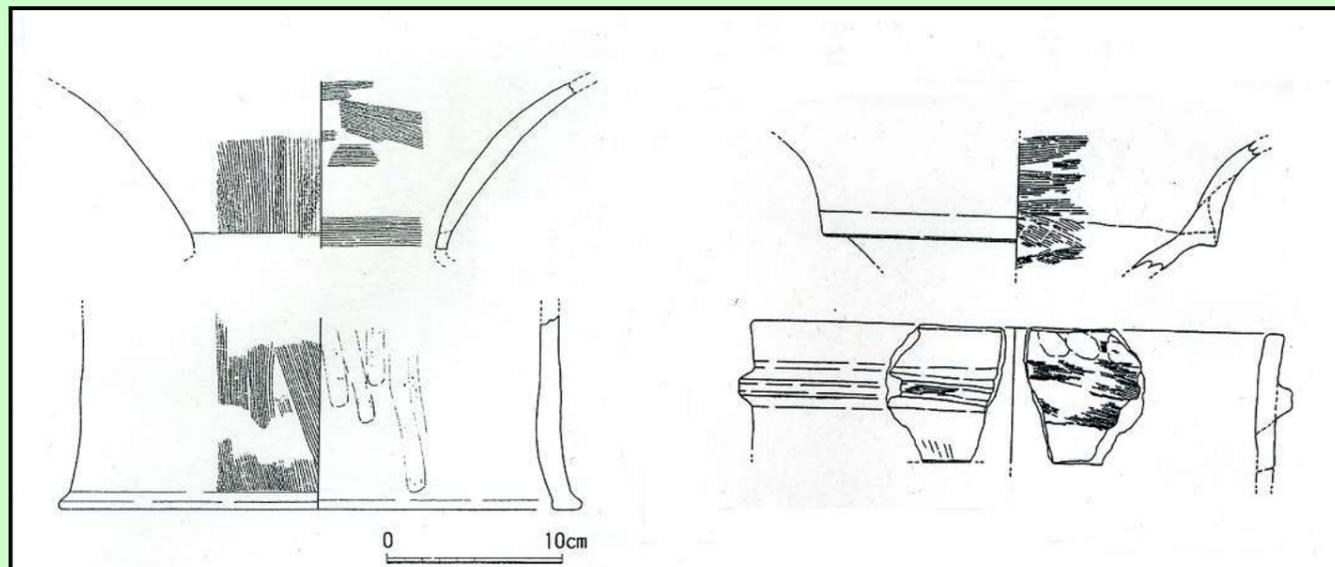
古墳時代からの港「賀富羅津(旧多度津)」が弘田川の河口にある

のではないかとされているので、海の交流の基点に権威を示すような形で、当時の多度津周辺の支配者クラスの墓として造られたようです。白方地区は御産盥山古墳以前には、同じ山塊にある黒藤山4号墳から、それ以降は奥白方の盛土山古墳や中東古墳群、黒藤山の黒藤山古墳群や北ノ前古墳など古墳時代の中期から後期にかけても古墳が集中しています。集落もこの地域の平地に集中するため、白方地区は古墳時代から、人々の暮らしの営まれる中心地域のひとつであったと考えられます。

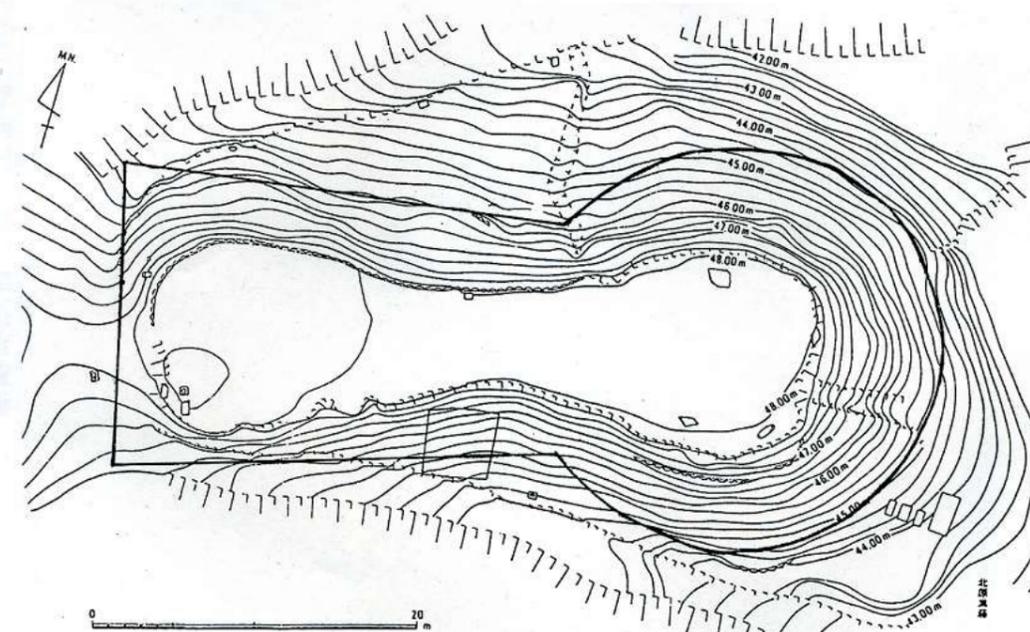
古墳時代の前期は東讃地域では東かがわ市で大日山古墳、津田湾岸では鶺鴒の



^へ部山古墳、けぼ山古墳、岩崎山4号墳など、高松市内では石清尾山古墳群の積
 石塚や船岡山古墳、中讃では丸亀市の^{かいてんやま}快天山古墳、吉岡神社古墳、善通寺の
^{のたのいん}野田院古墳、^{すりうすやま}磨臼山古墳、そして中讃北部の宇多津町では^{たおちやうすやま}田尾茶臼山古墳など
 前期段階には各地域に小中規模の前方後円墳が点在しています。香川県全体の
 古墳時代の流れとしては、前期段階に在郷の支配者が地方のコミュニティをま
 とめて、各地に勢力が見られます。中期以降にその勢力は消長、集約し、畿内
 勢力の影響も地方に強く及ぶようになります。後期になると、完全に中央に取り
 込まれ、小規模な古墳が群集墳化していきます。御産盃山古墳もその例にも
 らさず古墳時代の初めにあった地方コミュニティのひとつで、中讃北部の白方
 地区を中心とした地域をまとめていた支配者の墓であったといえるのです。



御産盃山古墳で出土した朝顔形埴輪(上2つ)と円筒埴輪(下2つ)



墳丘の形状図